

J A 鹿児島県経済連の取り組みについて

協同農業普及事業に関する意見交換会

鹿児島県経済農業協同組合連合会

農産事業部

新村 浩二

令和6年12月6日（金）

出典：かごしまの農業2023, 令和3年生産農業所得統計 他

○ JA 鹿児島県経済連について

事業内容

JA鹿児島県経済連は、県下のJAがつくっている県段階の連合会です。事業としては組合員農家の生産した農畜産物をJAを通じて集荷・加工・販売する販売事業と、農業生産や生活に必要な資材をJAを通じて供給する購買事業を行っており、JAと力を合わせて組合員農家の営農と生活の向上に努めています。

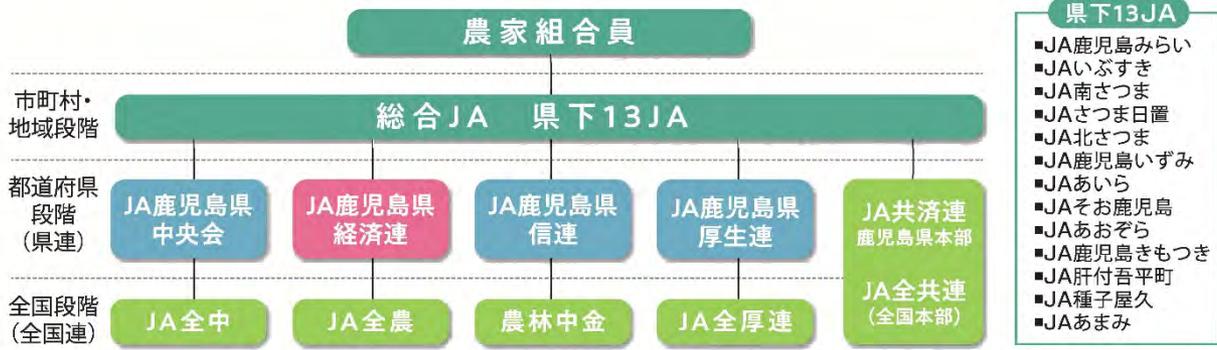
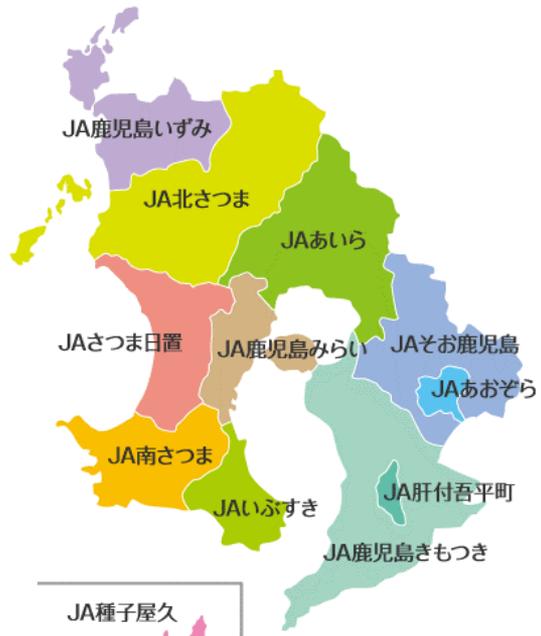
概要 (令和6年3月31日現在)

名称 ……鹿児島県経済農業協同組合連合会
 (愛称:JA鹿児島県経済連)
 設立年月日 ……昭和26年4月1日
 会員数 ……28(正会員19のうち総合JA13、准会員9)
 職員数 ……375人(男269人、女106人)
 出資金 ……54億円
 固定資産 ……101億円
 事業取扱高 ……3,558億円

経済連マークの意味

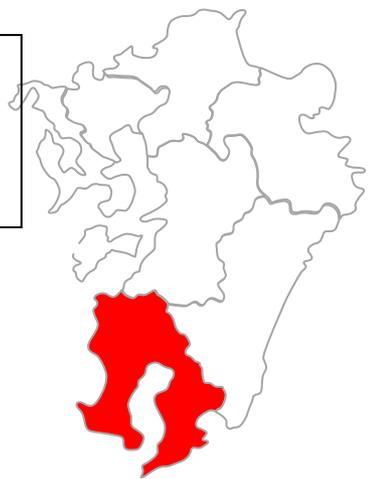


鹿児島を代表する桜島をモチーフにデザイン化。3つの山は、桜島の北岳・中岳・南岳の3つの峰を3事業本部になぞらえて表現。鹿児島のイメージである「ブルー」を全体基調としています。



○ 鹿児島県農業の概要

鹿児島県の農業は、地域経済を支える基幹産業であり、2022年の**農業産出額**は**全国第2位**の**5,114億円**。この内、畜産が農業産出額の約66%、**園芸野菜、いも類**が約16%を占める。



【全国・本県の農業産出額】

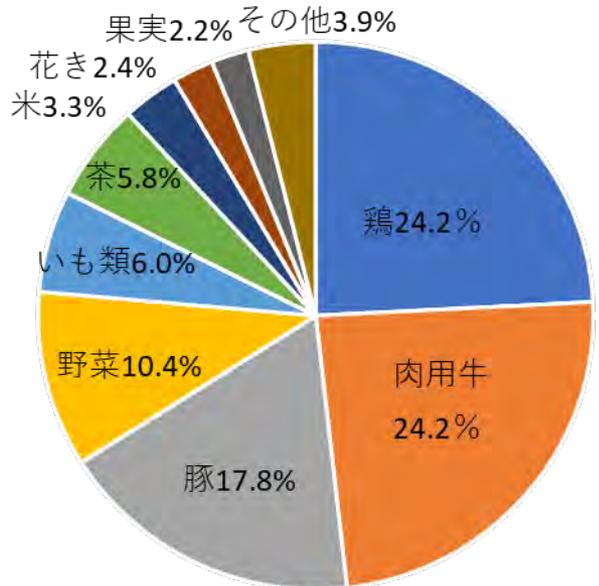
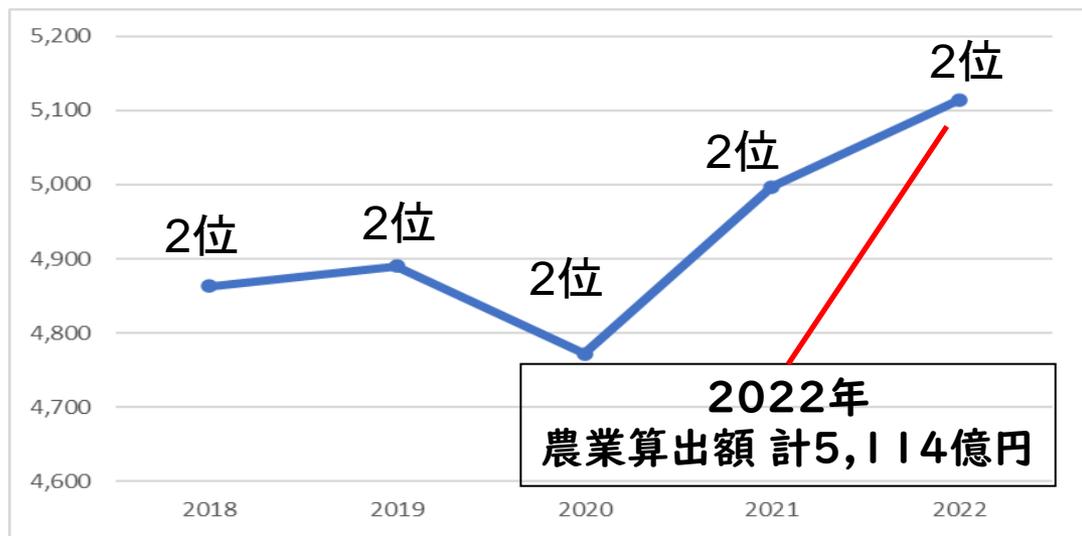
単位：億円

| | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 |
|-----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 全国 | 91,283 | 89,387 | 89,557 | 88,600 | 90,147 |
| 鹿児島 | 4,863 | 4,890 | 4,772 | 4,997 | 5,114 |

【本県の農業算出額(品目別)】

◎本県の農業算出額推移・全国順位

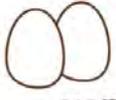
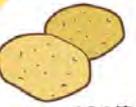
「令和4年 生産農業所得統計」



「令和4年 生産農業所得統計」

○ 鹿児島県農業の特徴

【生産金額上位15品目】

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|---|---|---------|---|-------|---|-------|--|-------|---|--------|---|-------|---|-------|
| 順位 | 品目 | 1位 | 肉用牛 | 2位 | 豚 | 3位 | ブロイラー | 4位 | 鶏卵 | 5位 | ばれいしょ | 6位 | 米 | 7位 | 茶(生葉) |
| | |  | 1,240億円 |  | 900億円 |  | 736億円 |  | 316億円 |  | 184億円 |  | 176億円 |  | 152億円 |
| 産出額 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8位 | さとうきび | 9位 | さつまいも | 10位 | 生乳 | 11位 | 荒茶 | 12位 | ピーマン | 13位 | さやえんどう | 14位 | オクラ | 15位 | キャベツ |
| |  |  | 118億円 |  | 88億円 |  | 87億円 |  | 52億円 |  | 44億円 |  | 43億円 |  | 39億円 |
| | 130億円 | | | | | | | | | | | | | | |

資料 / 「令和3年 生産農業所得統計」

【全国における収穫量・飼養頭羽数 上位品目】

| 品 目 | 収穫量・飼養頭羽数 | 全国に占める割合 | 全国における地位 | 資 料 |
|-------------|------------|----------|----------|--------------------|
| 肉 用 種 (牛) | 343,400頭 | 18.2% | 1位 | 令和5年 畜産統計(第1報) |
| 豚 | 1,153,000頭 | 12.9% | 1位 | |
| ブ ロ イ ラ ー | 31,285千羽 | 22.1% | 1位 | |
| オ ク ラ | 5,210t | 43.4% | 1位 | 令和2年産 地域特産野菜生産状況調査 |
| さ つ ま い も | 210,000t | 29.5% | 1位 | 令和4年産 作物統計 |
| さ や え ん ど う | 4,940t | 24.9% | 1位 | 令和3年産 作物統計 |
| そ ら ま め | 3,300t | 23.7% | 1位 | |
| 球 根 類 | 16,500千球 | 22.2% | 1位 | |
| さ と う き び | 534,100t | 42.0% | 2位 | 令和4年産 作物統計 |
| 茶 (荒 茶) | 26,700t | 34.6% | 2位 | 令和3年産 作物統計 |
| ば れ い し ょ | 91,000t | 4.2% | 2位 | |
| か ぼ ち ゃ | 7,140t | 4.1% | 2位 | |
| ピ ー マ ン | 13,300t | 9.0% | 3位 | 令和5年 畜産統計(第1報) |
| 採 卵 鶏 | 11,582千羽 | 6.8% | 3位 | |
| マ ン ゴ ー | 372t | 11.0% | 3位 | |
| び わ | 189t | 7.5% | 3位 | 令和2年産 特産果樹生産動態等調査 |
| さ や い ん げ ん | 2,070t | 5.7% | 4位 | 令和4年産 作物統計(第1報) |
| だ い こ ん | 92,500t | 7.4% | 4位 | |
| | | | | 令和3年産 作物統計 |

○ 鹿児島県農業の特徴

【全国における本県農業の地位】

| 区 分 | 実 数 | 全 国 に 占める割合 | 全 国 に おける地位 | 九 州 に おける地位 | 資 料 |
|-------------------|------------|----------------|----------------|----------------|-------------------------------------|
| 農 業 経 営 体 数 | 29,717 経営体 | 2.8 % | 12 位 | 2 位 | 農林水産省 「2020年農林業センサス」 (R2.2.1) |
| 個 人 経 営 体 数 | 28,276 経営体 | 2.7 % | 12 位 | 2 位 | |
| 主 業 経 営 体 数 | 8,781 経営体 | 3.8 % | 6 位 | 2 位 | |
| 基 幹 的 農 業 従 事 者 数 | 37,580 人 | 2.8 % | 16 位 | 3 位 | |
| 団 体 経 営 体 数 | 1,441 経営体 | 3.8 % | 3 位 | 1 位 | |
| 1経営体当たり経営耕地面積 | 2.4 ha | 全国 3.1 ha | 14 位 | 2 位 | 農林水産省 「耕地及び作付面積統計」 (R4.10.28) |
| 耕 地 面 積 | 111,800 ha | 2.6 % | 12 位 | 1 位 | |
| 田 | 34,700 ha | 1.5 % | 28 位 | 5 位 | |
| 畑 | 77,100 ha | 3.9 % | 2 位 | 1 位 | |
| 普 通 畑 | 61,700 ha | 5.5 % | 2 位 | 1 位 | |
| 樹 園 地 | 12,400 ha | 4.8 % | 7 位 | 2 位 | |
| 牧 草 地 | 2,960 ha | 0.5 % | 10 位 | 2 位 | |
| 畑 地 率 | 69 % | 全国 45.6 % | 6 位 | 1 位 | 農林水産省 「生産農業所得統計」 (R4.12.27) |
| 農 業 産 出 額 | 4,997 億円 | 5.6 % | 2 位 | 1 位 | |
| 生 産 農 業 所 得 | 1,712 億円 | 5.1 % | 2 位 | 1 位 | |
| 生 産 農 業 所 得 率 | 34.3 % | — | 40 位 | 7 位 | 農林水産省(令和2年度概算値) |
| 食 料 自 給 率 | 77 % | 全国 37 % | 8 位 | 2 位 | |

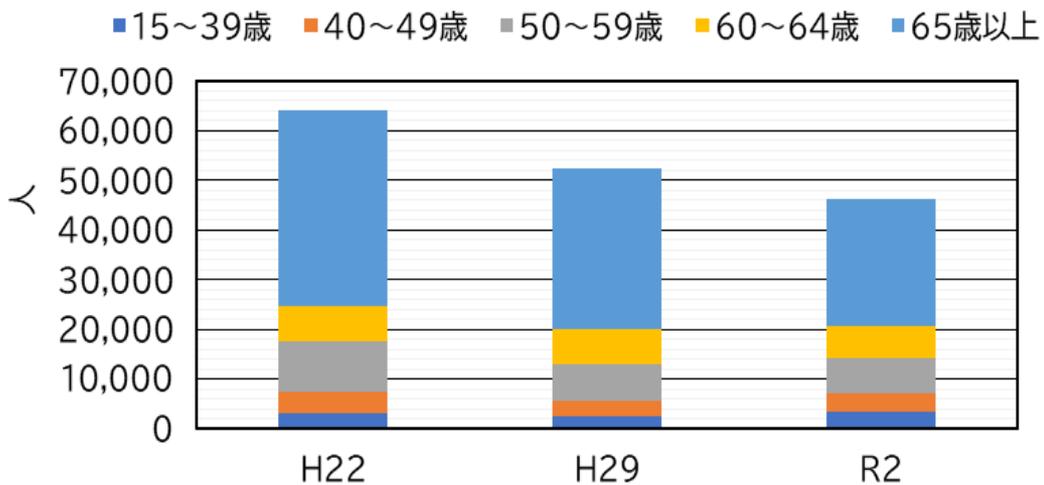
※「九州における地位」に沖縄県は含まない ※資料/「かごしまの農業2023」令和5年3月

○ 鹿児島県農業の現状

【県農業従事者の年齢構成】

単位:人

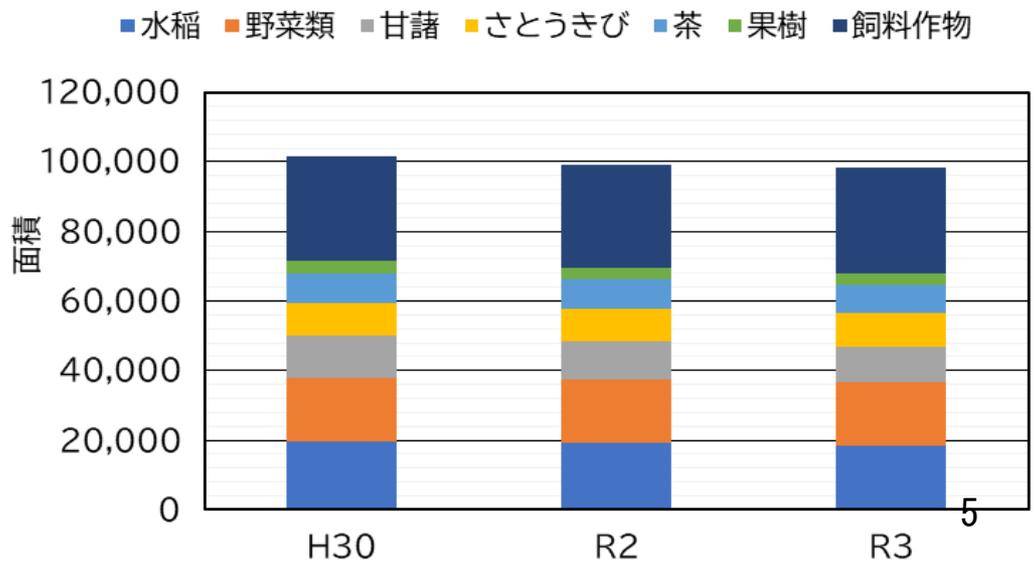
| | H22 | H29 | R2 |
|--------|--------|--------|--------|
| 15～39歳 | 3,123 | 2,565 | 3,429 |
| 40～49歳 | 4,514 | 3,168 | 3,780 |
| 50～59歳 | 10,137 | 7,346 | 6,983 |
| 60～64歳 | 6,880 | 6,883 | 6,412 |
| 65歳以上 | 39,483 | 32,556 | 25,770 |



【県農業栽培面積の推移】

単位:ha

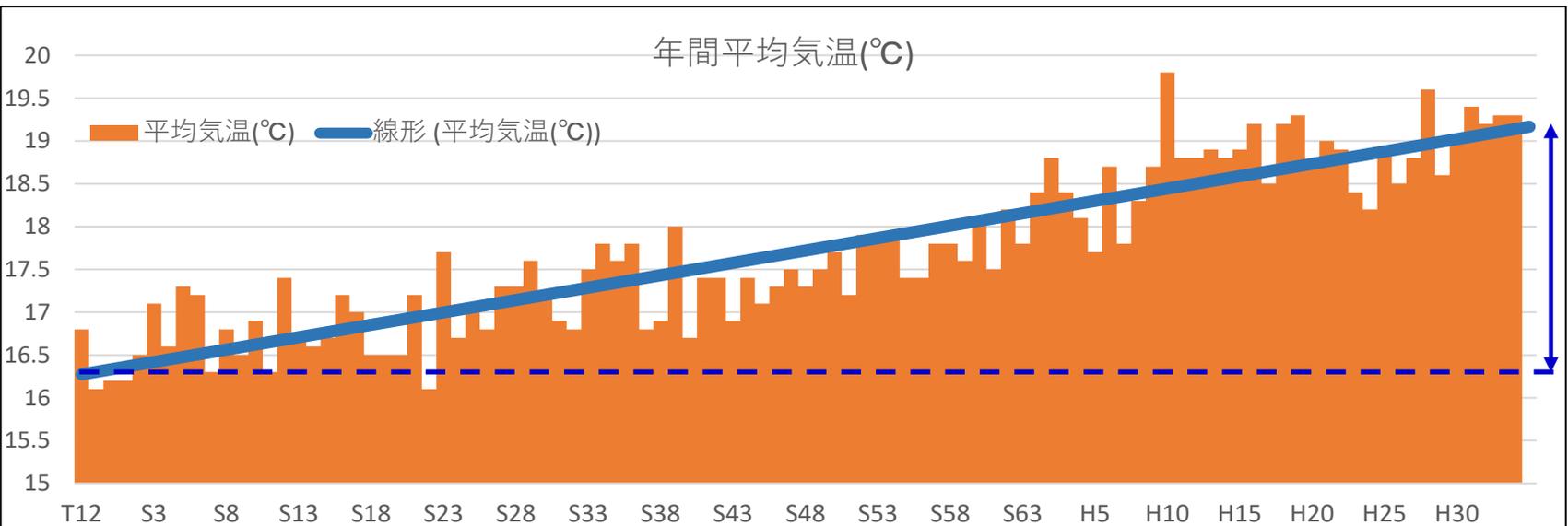
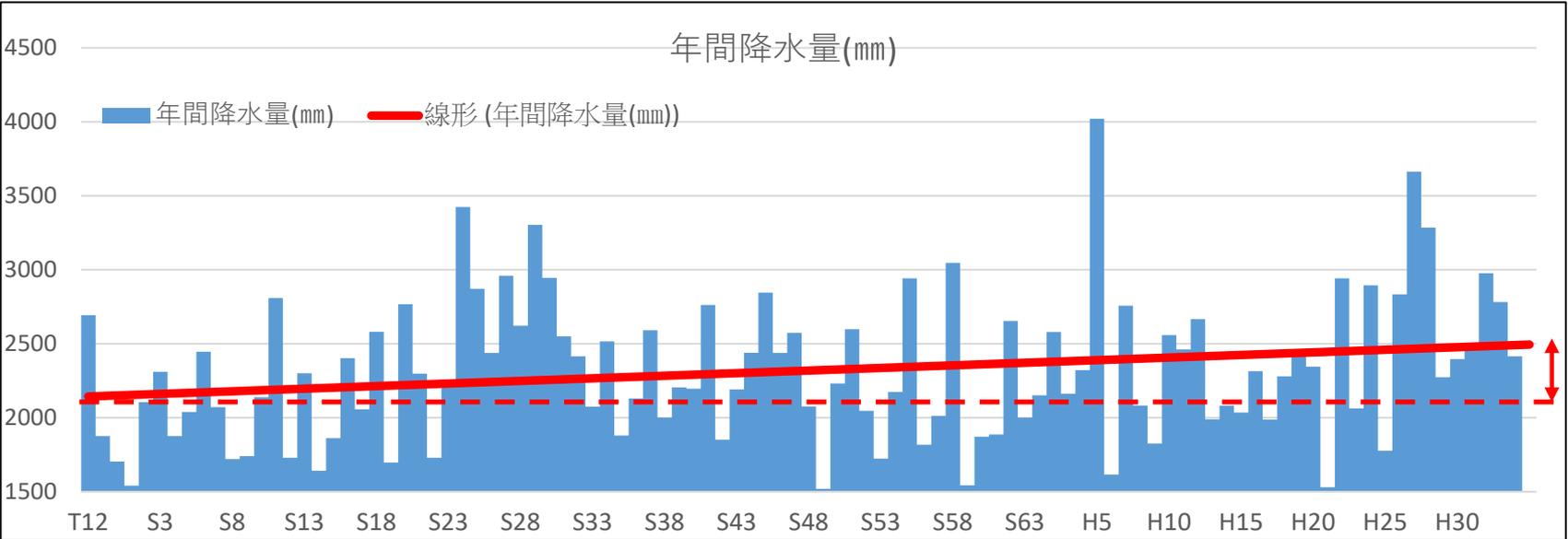
| 作物 | H30 | R2 | R3 |
|-------|--------|--------|--------|
| 水稲 | 19,500 | 19,300 | 18,600 |
| 野菜類 | 18,499 | 18,143 | 17,958 |
| 甘藷 | 12,100 | 10,900 | 10,300 |
| さとうきび | 9,436 | 9,598 | 9,511 |
| 茶 | 8,410 | 8,360 | 8,300 |
| 果樹 | 3,607 | 3,430 | 3,352 |
| 飼料作物 | 29,844 | 29,213 | 30,318 |



※農業センサスより

○ 鹿児島県農業の現状

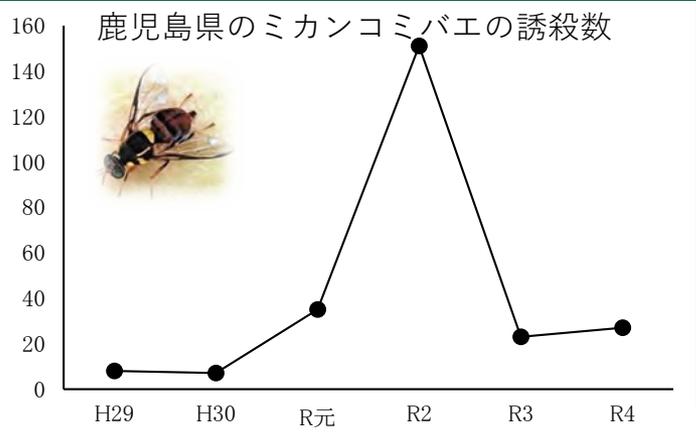
【鹿児島県の気象】



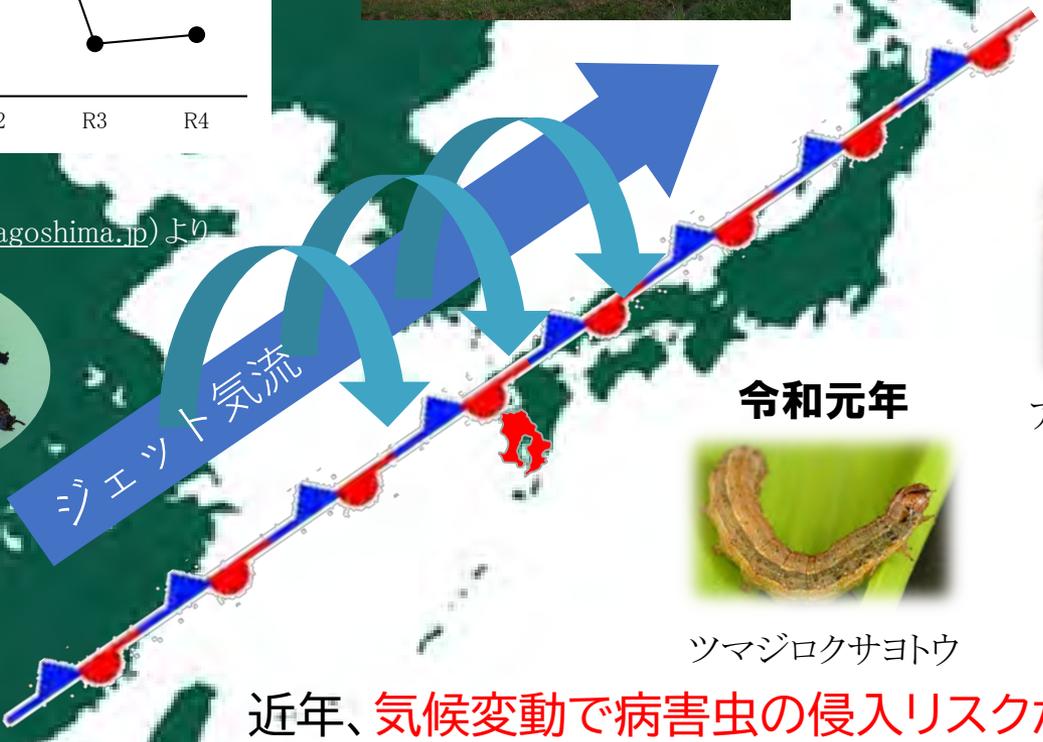
○ 鹿児島県農業の現状

【気象条件による病害虫の侵入】

梅雨の時期に梅雨前線沿いに吹くジェット気流に乗って
中国大陸から害虫が飛来する。



鹿児島県 (<http://www.pref.kagoshima.jp>) より



近年、気候変動で病害虫の侵入リスクが増している。

○ ドローン受託防除事業の背景

【農業従事者の声】

① 高齢になって、重い農薬散布のホースを引っ張ることが大変になった…。

② 猛暑が続いて、農薬散布に何時間もかけていたら熱中症になってしまう…。

③ 畑の面積が増えて、農薬散布まで手が回らなくなってきた…。



④ 異常気象のせいで害虫が増えたり、発生時期が変わったり、今までのやり方が通用しない…。

⑤ 農薬散布のために畑の中を歩き回ると、逆に病害を広めてしまうかも…。



農家の声に応えるために、JAグループで何か出来ないか



ドローン受託防除事業を開始(R1.7~)

○ ドローン受託防除事業について

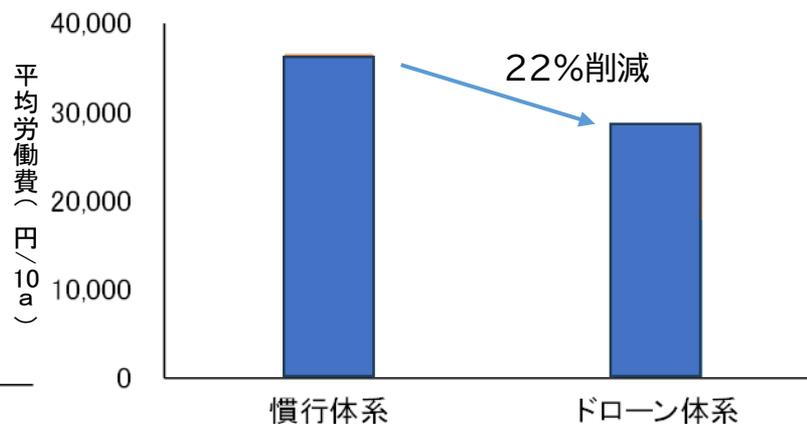
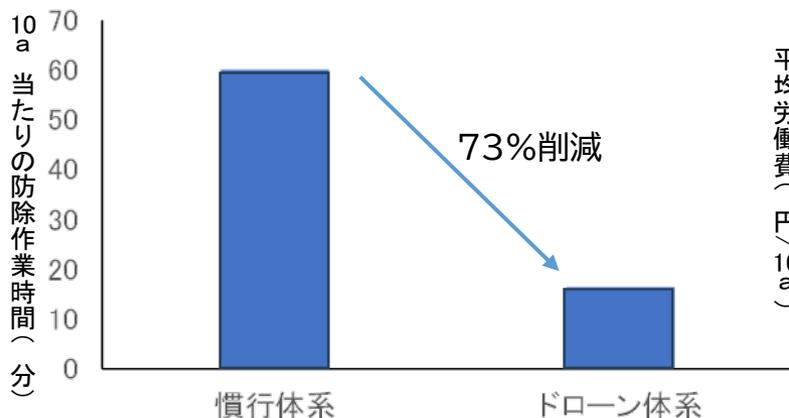
【取組み目的】

高齢化、人手不足、面積拡大、異常気象など、様々な要因で農家の負担となっている防除作業(農薬散布作業)を、JAグループ鹿児島が委託を受け、ドローンによる効率散布を県域で取組み、農家の作業負担軽減を目指す。



【取組み概要】

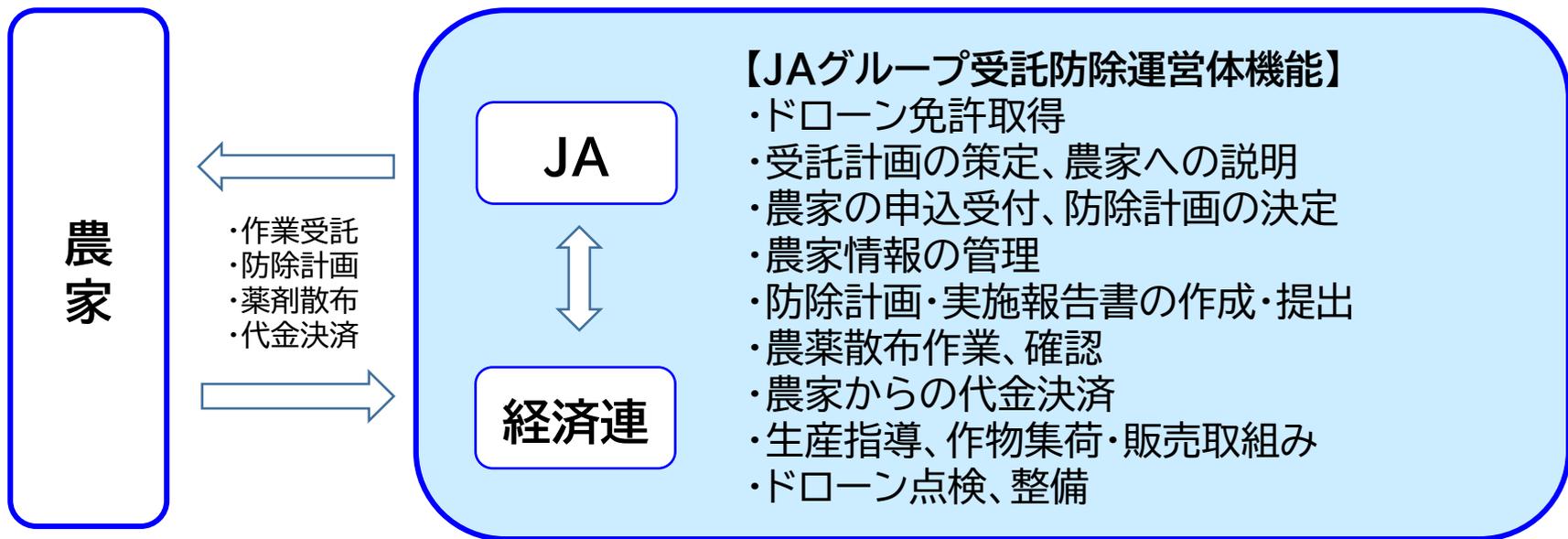
- (1)事業開始 : 令和 元年 7月 ~
- (2)所有機体 : MG-1 × 2機 、 T-10 × 4機 、 T-20 × 4機 (DJI製)
- (3)資格所有者 : オペレーター 25名
- (4)対象作物 : 水稲、馬鈴薯、など
- (5)取組み効果 :



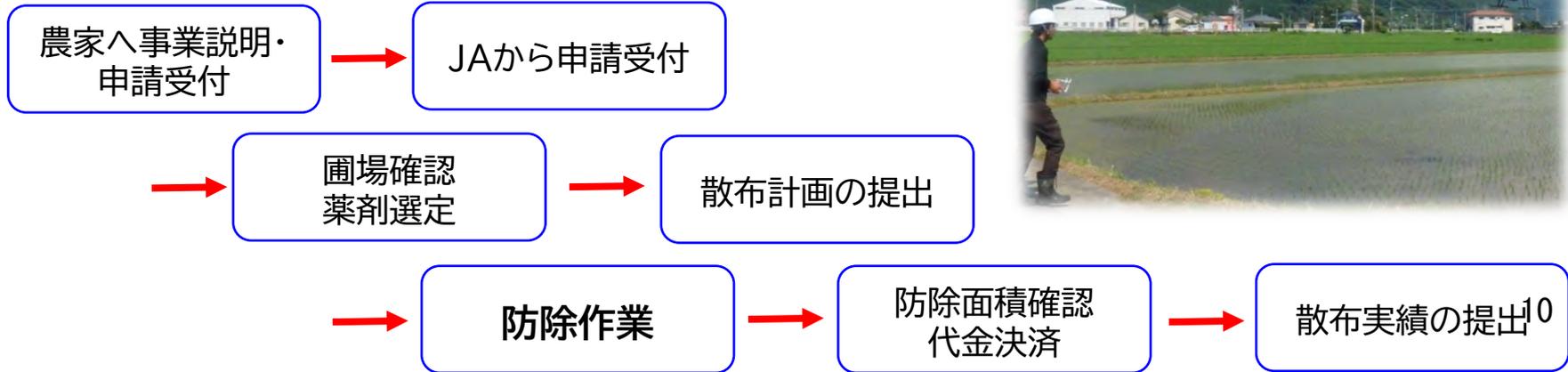
※原料かんしょ畑での実証(経済連調べ)

○ ドローン受託防除事業について

【取組みフロー】



受託の流れ

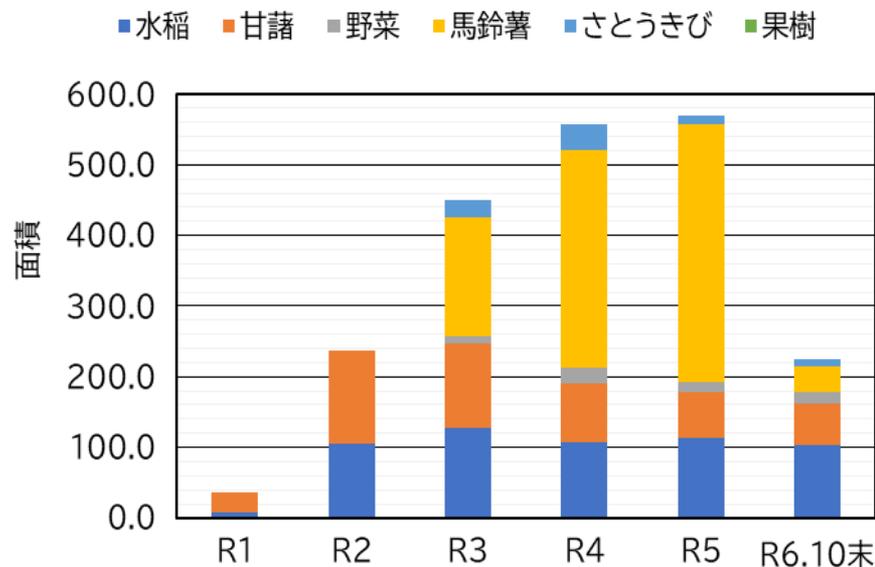


○ ドローン受託防除事業について

【取組み実績】

単位:ha

| 作物 | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6.10末 |
|-------|------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 水稲 | 7.3 | 104.9 | 126.5 | 108.2 | 114.3 | 103.1 |
| 甘藷 | 28.6 | 131.9 | 120.5 | 81.9 | 64.0 | 59.7 |
| 野菜 | | | 9.9 | 22.6 | 14.0 | 15.0 |
| 馬鈴薯 | | | 168.2 | 309.1 | 366.1 | 36.3 |
| さとうきび | | | 24.3 | 36.1 | 11.7 | 9.9 |
| 果樹 | | | | | | |
| 計 | 35.9 | 236.8 | 449.4 | 557.9 | 570.1 | 224.0 |



【外部委託への取組み】

需要の増加に伴い、防除作業体制を再構築することを目的に、外部組織への作業委託を開始。

- (1) 委託開始 : 令和 6年 7月 ~
- (2) 委託実績 : 78.6ha (令和6年10月末現在)



○ ドローン受託防除事業の課題について

【課題一覧】

1. ドローン導入費用、維持管理経費などを農家個人で負担することは困難

→ 共同購入、共同防除を



2. ドローン所有農家が増加して、無知識で散布している農家が散見

→ 行政としての指導を



3. 農薬ドリフトリスクを一定以下に抑えることが困難

→ 農地(・植え付け作物)集約を



4. 遠隔地(離島)のサービス継続が困難

→ 場所や時期を選ばずサービスを提供できるような体制(協議体)を



5. 一部作物のドローン散布試験事例が少ない

→ 果樹、豆類、茶などドローン事例の少ない防除技術の
深化(農薬登録の拡大)を



○ 農業におけるサービス事業の展望について

【今後の展望】

農家の高齢化、人手不足、農家当たりの面積増への対応

→ 高齢化、人手不足の根本的な改善は難しい…。



スマート技術等の導入による農作業の省力化が必要



一方で…

スマート技術を農家個人で導入することは難しく、二の足を踏む農家が多い(スムーズな普及が課題)



普及のモデルケースとなるような現場目線の実践が必要。特に、サービスを共同で利用出来るような体制(制度)が求められる。